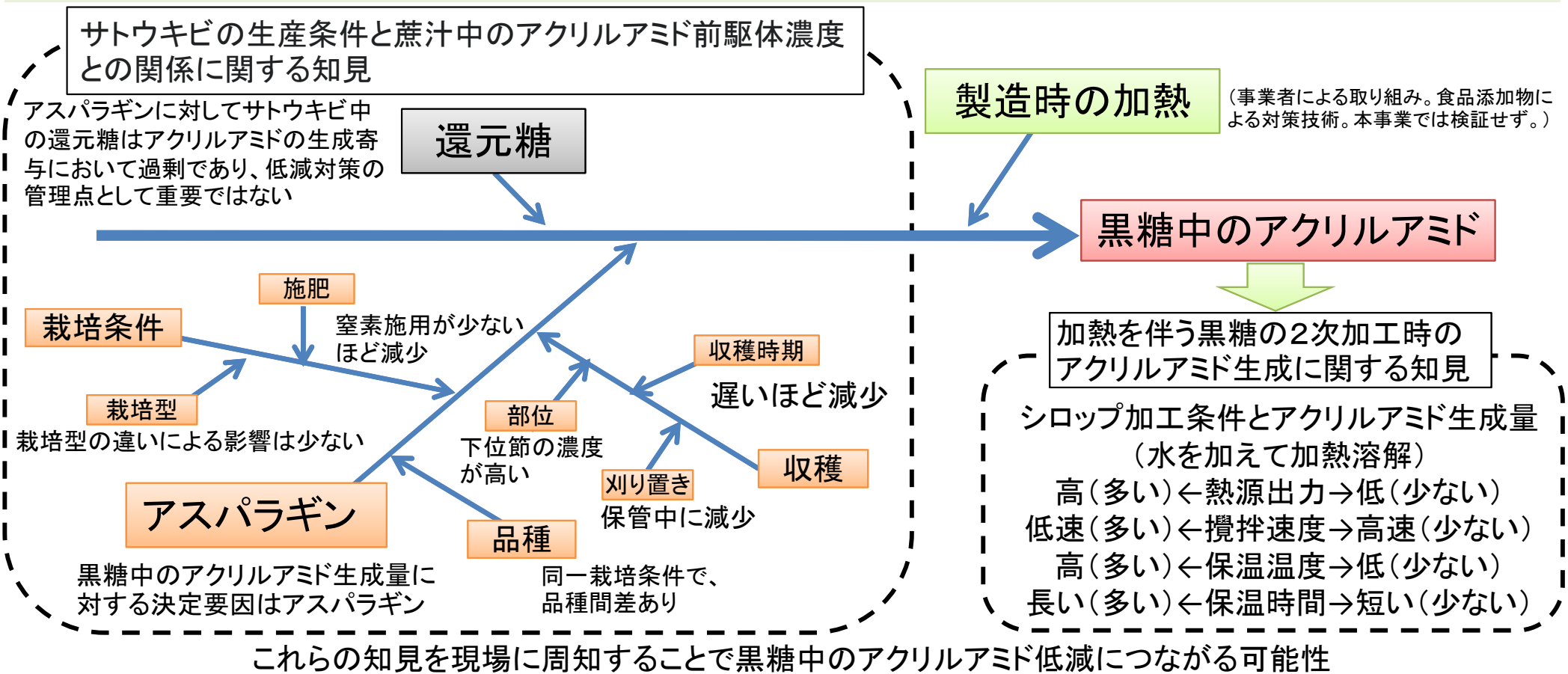


黒糖の安全性をさらに向上するための研究

（背景）黒糖生産は鹿児島、沖縄地域の離島において、基幹作物であるサトウキビ生産を成り立たせている重要産業である。一方、黒糖中のアクリルアミドは海外で指標値が設定されるなどリスク管理の取り組みが求められており、海外輸出も見据えた将来の産業の発展には多様な低減対策が求められる状況にある。サトウキビの栽培等における管理の違いが蔗汁中アスパラギン濃度や黒糖中のアクリルアミド濃度に与える影響、二次加工時に新たなアクリルアミドが生成する懸念については先行研究がなく、これらの知見の蓄積が必要である。

- （方法）・沖縄と鹿児島の試験圃場で栽培条件や品種を変えてサトウキビを栽培し、蔗汁中のアクリルアミド前駆体濃度を測定
 ・実験室での黒糖の試作試料、産地での採取試料から、黒糖のアクリルアミド濃度と対応する原料蔗汁の前駆体濃度を測定
 ・2次加工を想定して、様々な条件で黒糖を加熱溶解し、アクリルアミド濃度を測定



代表機関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 基盤技術研究本部 高度分析研究センター

研究総括者：小野 裕嗣

問い合わせ先：TEL 029-838-8033

E-mail ono@affrc.go.jp